

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (平成 28 年 1～3 月期)

海外情勢に懸念材料多く、
産業景気は横ばい続く

～ 2 期連続して全 20 業種が『横ばい』見通し～

中国経済の減速や原油価格の下落などを受けて株価が大幅に下落、足元の経済情勢は不安定になっている。百貨店やスーパーなど個人消費も低迷するなど、県内経済は年明けから盛り上がりや欠く展開が続く。

なお、業種ごとの 1～3 月期の業界景気見通しは、主要 20 業種すべてが『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が 2 業種、『普通』が 7 業種、『低調』が 10 業種、『不調』が 1 業種の見通し。

業種	調査項目	業界景気	
		現況(10～12月)	見通し(1～3月)
製茶		● → ●	
食品・飲料		○ → ○	
家庭紙		○ → ○	
産業用紙		● → ●	
工作機械		○ → ○	
民生用電器部品		○ → ○	
自動車部品		● → ●	
二輪車部品		☂ → ☂	
建設		○ → ○	
住宅		● → ●	
大型小売店		● → ●	
食品スーパー		● → ●	
自動車販売		● → ●	
家電量販店		● → ●	
運輸・倉庫		● → ●	
情報サービス		○ → ○	
外食		○ → ○	
観光・レジャー		○ → ○	
リース		● → ●	
人材派遣		○ → ○	

担当：主席研究員 望月 毅
研究員 岩間 晴美

海外情勢に懸念材料多く、産業景気は横ばい続く

中国経済の減速や原油価格の下落などを受けて株価も大幅に下落、足元の経済情勢は不安定になっている。また、暖冬の影響もあって百貨店やスーパーなど個人消費も低迷するなど、県内経済は年明けから盛り上がりや欠く展開が続く。海外経済の先行き不透明感が強い中で、国内においては雇用や所得環境は緩やかながら改善の方向に動くと思われるが、県内企業の生産・販売活動の回復には時間がかかり、産業景気はしばらくは横ばいで推移する見通し。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成27年10～12月期）の業況は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」、「家庭紙」、「工作機械」、「民生用電器部品」、「建設」、「外食」、「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「自動車部品」、「住宅」など10業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成27年9月）調査との比較では、「食品・飲料」が『低調』から『普通』に上昇、「工作機械」が『順調』から『普通』に1ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成28年1～3月期の景気見通しは、主要20業種すべてが『横ばい』と、足踏みが続く見通しとなった。

『順調』のまま『横ばい』と見込まれるのは、引き続き首都圏を中心に大型案件の需要が高まると予想される「情報サービス」と、ITや介護などの分野で需要が高い「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、需要が底堅い「食品・飲料」、「家庭紙」、設備投資マインドの改善に期待がかかる「工作機械」、夏に向けて生産前倒しの動きがみられる「民生用電器部品」、工場増設の動きがある「建設」、新規出店の動きが本格化する「外食」、三島大吊橋の開業効果で売上高が伸びそうな「観光・レジャー」の7業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは10業種。仏事や贈答需要の回復が鈍い「製茶」、在庫がやや多めの「産業用紙」、軽自動車の販売減少が続く「自動車部品」、「自動車販売」、供給過剰感から貸家が減少するとみられる「住宅」、雇用・所得環境の改善から売上増加に期待がかかるも水準が低い「大型小売店」、「食品スーパー」、「家電量販店」、主力の輸送機械の動きが鈍い「運輸・倉庫」、中小企業を中心に投資マインドが冷え込んでいる「リース」の10業種が『低調』の見通し。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、主力の中・大型車における現地生産化の流れが変わらず、輸出が伸び悩む「二輪車部品」の1業種の見通し。

なお、半期調査業種（2業種）では、原材料価格の上昇などで厳しい収益環境が予想される「家具」、販売価格の値上げの影響で苦戦しそうな「楽器」が、『低調』のまま『横ばい』の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成25年				平成26年				平成27年			
四 半 期		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV (今回調査)
対象月(○は調査月)		1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
	順調 ○	0	1	2	4	5	1	1	2	1	2	3	2
	普通 ◐	2	1	3	6	7	5	5	4	4	3	5	7
	低調 ☁	16	17	14	9	6	13	13	13	13	13	11	10
	不調 ☂	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
不調：1													
業界景気の『見通し』	上 昇 ↗	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	1	2	2	5	0	1	2	0	2	2	0	0
	横 ば い →	18	17	17	15	12	19	18	20	18	18	20	20
	やや下降 ↘	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	下 降 ↘	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10~12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1~3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成27年12月初旬
 回答企業…県内主要20業種(141社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 28 年 1 ～ 3 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (10～12月)	見通し (1～3月)	生産量 (対比伸び率 前10～12月期)	売上高 (対比伸び率 前10～12月期)	生産量 (伸年同比率 前年同比率)	売上高 (伸年同比率 前年同比率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前10～12月期対比)	製品価格の動向 (前10～12月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☀ → ☀	☀	—	—	—	→	○	供給超過	過多	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	→	→	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	過多	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	1.5～7.0
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.3～3.0
自動車部品	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～2.0
二輪車部品	☂ → ☂	☂	→	→	↘	↘	◇	均衡	適正	→	→	0.5～2.0
建設	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	均衡	適正	→	→	3.0～9.0
住宅	☀ → ☀	☀	—	↗	—	↗	○	供給超過	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☀ → ☀	☀	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	☀ → ☀	☀	—	→	—	→	—	供給超過	適正	→	→	—
自動車販売	☀ → ☀	☀	—	↗	—	↘	—	供給超過	適正	→	→	—
家電量販店	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
運輸・倉庫	☀ → ☀	☀	—	→	—	→	○	均衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	↘	—	↘	—	均衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	供給超過	—	↗	→	—
リース	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
＜特別調査 平成28年1～6月期 半期見通し＞												
家具	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	適正	↗	→	0.5～1.0
楽器	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 現況 見通し	業界景気 見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ○	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☀	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(7～12月期の現状と1～6月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。半期調査対象企業…2業種の企業7社。

主要業種の現況と1～3月期の景況見通し

業種	業界天気	機能性を生かした「TEAショット」をアピール
製 茶	☁ → ☁	<p>(現況)・10～12月の製茶問屋の売上は、前年水準程度となった模様。年末の需要期だが、贈答需要は盛り上がり欠ける。なお、11月に静岡市で「全国お茶まつり」が開催され、さまざまな種類の茶の紹介や新たな消費スタイルの提案が行われた。</p> <p>(見通し)・1～3月の製茶問屋の売上は、前年並みで推移する見込み。家庭需要は底堅いが、仏事や贈答需要の回復は鈍く、暖冬予想も逆風となる。こうした中、「テアニン」のリラックス効果に着目したゴルフ前の緑茶飲用「TEAショット」など、機能性を需要拡大につなげたい。</p>

業種	業界天気	販促によりツナ缶生産量は増加傾向
食 品 ・ 飲 料	○ → ○	<p>(現況)・10～12月の県内の食料缶生産量は、前年を+10%程度上回った模様。主力のツナ缶は、テレビCMなどの販促効果により、低調だった前年水準を+10%程度上回った。飲料缶は、天候不順で低水準の前年並みにとどまった。</p> <p>(見通し)・1～3月の県内の食料缶生産量は、前年をやや上回る見通し。主力のツナ缶は、需要が底堅く、前年比微増の見込み。下げ基調の魚価は一服し、横ばいで推移する模様。飲料缶は、暖冬が予想されることから需要は伸び悩み、前年を下回るとみられる。</p>

業種	業界天気	トイレ紙価格は安定、製品多様化が引下げ圧力を軽減
家 庭 紙	○ → ○	<p>(現況)・10～12月の家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年水準を確保し、価格面でもメーカー各社の販売戦略が奏功して適正水準を維持。ティッシュの生産量は前年比横ばいも、価格が伸び悩んでいる。</p> <p>(見通し)・1～3月の家庭紙の生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。再生トイレ紙の価格は、香り付きなど製品ラインアップの多様化が引下げ圧力を弱めており、安定的に推移しそう。ティッシュは、安価な輸入品との競合が厳しく、価格修正にはしばらく時間がかかりそう。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙の需要は概ね堅調も、在庫増に警戒を
産 業 用 紙	☁ → ☁	<p>(現況)・10～12月の産業用紙の生産量は、前年並みとなった。段ボール原紙は、主力の加工食品向けが堅調に推移し、前年比微増となった模様。白板紙は、包装簡素化などの影響で、前年をやや下回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・1～3月の産業用紙の生産量は、前年並みとなる見通し。段ボール原紙は、現状在庫がやや多めだが、主力の加工食品をはじめ通販などで需要が底堅く、前年をやや上回る見込み。白板紙は、医薬品向けなど一部では底堅いものの、全般的に需要が落ち込む中で、前年をやや下回るとみられる。</p>

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	外需が振るわず受注総額は前年を下回る見通し
工作機械	○ → ●	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲10～20%下回って推移した模様。外需は、アジア向けや欧州向けが不振で前年を▲20%程度下回ったとみられる。一方、内需は、前年並みを維持した。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年比▲10%以上下回るとみられる。外需は、メインのアジアで力強さがなく、前年比▲20%ほど下回る見込み。内需は、一服感はあるものの、設備投資マインドの改善に期待がかかる。受注額の減少が続くが、前年の受注水準高く、悪化懸念は薄い。

業種	業界天気	エアコン生産の前倒しの動きあり、前年並みは確保の見通し
民生用電器部品	○ → ●	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、暖冬が続いたものの、前年水準が低かったことから、前年実績を上回った。一方、冷蔵庫の出荷台数は、401ℓ以上の大容量モデルの販売で一服感があり、前年を若干下回って推移した。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷額は、冬場の天候次第だが、前年並みを確保する見通し。一部メーカーでは、来年の消費税率上昇を見据え、夏に向けて例年より生産の前倒しの動きがみられる。一方、冷蔵庫の出荷台数は、一進一退が続きそう。これらに伴い、部品メーカーの受注量は前年を上回る見込み。

業種	業界天気	北米向け輸出が下支えし、国内生産は前年並みの見込み
自動車部品	☁ → ☁	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年を+3%程度上回った模様。内需は、軽自動車の不振で前年割れしたものの、北米向けを中心に輸出が増加した。部品メーカーの出荷高は、前年並みで推移したとみられる。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。内需は、引き続き軽自動車が低調で前年をやや下回る見込み。一方、輸出は、北米向けのSUVなどが好調で、前年実績を上回るとみられる。部品メーカーの受注量も、ほぼ前年並みで推移すると予想される。

業種	業界天気	海外現地生産化が進展し、国内生産は伸び悩む
二輪車部品	☂ → ☂	(現況)・10～12月の全国完成車生産台数は、前年を▲1～2割下回って推移した模様。国内販売が伸び悩んだほか、輸出も北米・欧州向けが前年実績を割り込んだ。県内部品メーカーの生産量も、前年を下回って推移した模様。 (見通し)・1～3月の全国完成車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。完成車メーカーの一部で国内生産回帰の動きが始まったが、主力の中・大型車における現地生産化の流れは変わらず、輸出は伸び悩むとみられる。県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移する見込み。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	公共は年度末にかけて増加、民間は製造業などで回復の兆し
建設	○ → ●	(現況)・公共工事契約額は、前年を上回った模様。国関連の橋りょう下部工や県の総合病院の新棟建設など、大規模な工事の発注があり大きく伸びた。民間の工事費予定額は、設備投資の様子見姿勢が広がり、前年を下回った模様。 (見通し)・公共工事契約額は、年度末に向けて堅調に推移することが予想され、前年を上回る見込み。富士山世界遺産センター建設工事の再入札の行方にも注目が集まる。民間の工事費予定額は、製造業で工場増設などの動きがみられ、低水準だった前年は上回って推移する見通し。

業種	業界天気	持家の増加基調が続き、全体を押し上げる
住宅	● → ●●	(現況)・新設住宅着工戸数は、前年を1割程度上回った模様。雇用・所得環境の改善に伴い、持家は緩やかな回復傾向を示した。貸家は、引き続き相続税対策の需要が堅調だった模様。分譲も、建売物件の供給により増加した。 (見通し)・新設住宅着工戸数は、前年を上回る見通し。貸家は供給過剰感から若干の減少が見込まれ、分譲も大型マンションの着工で好調だった前年水準を割り込むとみられる一方、持家は住宅取得マインドの改善で増加基調が続き、全体をけん引する見通し。

業種	業界天気	個人消費の緩やかな回復に伴い、前年実績を確保する見通し
大型小売店	● → ●●	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、化粧品などの販売が底堅く推移したものの、暖冬で冬物衣料品が振るわなかった。スーパーは、主力の飲食料品の販売が堅調で、前年水準を確保した。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、雇用・所得環境の緩やかな改善を受けて、前年実績を確保する見通し。百貨店は、宝飾品や特選ブランド、化粧品などを中心に、前年をやや上回って推移する見込み。総合スーパーは、飲食料品が底堅く推移すると予想され、前年実績を確保するとみられる。

業種	業界天気	相場高の水産物や果物が下支えし、前年水準を確保する見通し
食品スーパー	● → ●●	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。価格高騰が続く牛肉や漁獲量が少なかったサンマなどの販売がやや苦戦したものの、薬物を中心とした野菜類や刺身、惣菜などの売れ行きが好調に推移した。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に、前年実績を確保する見通し。暖冬が続いた場合、白菜など鍋物用野菜の販売低迷が懸念されるものの、価格が比較的高めに推移している水産物や果物類の販売が底堅く推移するとみられる。

○好調 ○順調 ●普通 ●●低調 ☂不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	登録車は新型車が好調、軽自動車は好材料に乏しく軟調
自動車販売	☁ → ☁	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を5%程度下回った模様。軽自動車は、新たな需要を喚起する材料に乏しく、▲1割前後の落ち込みが続いている。登録車は、主力車種のモデルチェンジが好評で、納期待ちになる車種もみられた。</p> <p>(見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや下回る見通し。軽自動車は、受注が減少している上、人気車種のバックオーダーも解消しており、厳しい状況が続くとみられる。一方、登録車は、ハイブリッドモデルの新型車の受注が順調に積み上がっており、当面は堅調な推移が見込まれる。</p>

業種	業界天気	4Kテレビへの買い替え需要増加で、前年をやや上回る見通し
家電量販店	☁ → ☁	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、冬のボーナス商戦で4Kテレビの売れ行きが伸長し、前年を+2割程度上回った。暖冬の影響で、エアコンは伸び悩んだものの、掃除機や調理家電が底堅く推移し、家電販売額全体では前年をやや上回った。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、価格下落や商品ラインアップの拡充により4Kテレビへの買い替え需要の増加が見込まれ、前年を上回る見通し。雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に、冷蔵庫や洗濯機といった生活家電も前年実績を確保するとみられ、家電販売額全体では前年をやや上回る見込み。</p>

業種	業界天気	トラック輸送量は前年並み、倉庫も前年水準を確保
運輸・倉庫	☁ → ☁	<p>(現況)・トラック輸送量は、鉄鋼や食料品などが堅調に推移し、前年水準をやや上回って推移したとみられる。普通倉庫の入出庫高も、電気機械や飲料などの荷動きが堅調で、前年水準をやや上回って推移した模様。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、年度末にかけて荷動きに期待がかかるが、ウエートの高い輸送機械で低迷が予想され、前年並みの水準にとどまる模様。普通倉庫の入出庫高については、主力の電気機械や食品関連の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移する一方、SE不足が深刻化
情報サービス	○ → ○	<p>(現況)・10～12月の全国の売上高は、主力のソフト開発が好調に推移したことから、前年をやや上回った模様。県内も、サービス業や卸売・小売業の流通システム関連の案件が相次いだほか、首都圏からの受託案件も増え、前年をやや上回った。</p> <p>(見通し)・1～3月の全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。引き続きソフト開発が堅調に推移する見込みで、首都圏を中心に大型案件の需要が高まると予想される。県内でも、首都圏から多くの案件を見込むが、SE不足が深刻で新人や若手の早期戦力化が経営課題となりそう。</p>

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☁不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

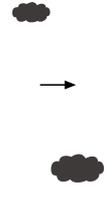
業種	業界天気	暖冬ならば鍋などの冬の季節料理は苦戦
外食	○	(現況)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回った。全体としては横ばい推移だが、可処分所得が増加していることや、苦戦していた大手チェーン店が巻き返しを図ることに成功し、売上高を伸ばした。
	→	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年をやや下回る見通し。長期予報では暖冬が予想されており、鍋料理に代表される季節需要は前年よりも苦戦する見込み。大手チェーン店の不採算店整理が一段落したとみられ、好立地物件では新規出店の動きが本格化する模様。

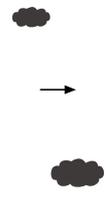
業種	業界天気	インバウンド客の減少を三島大吊橋で補う展開
観光・レジャー	○	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回る見込み。10～11月の冷え込みが弱く、紅葉の色づきが芳しくなかったため集客に苦労した。12月中旬開業の三島大吊橋は多くの観光客を集めたが、期間が短く宿泊需要は限定的だった。
	→	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年並みにとどまる模様。三島大吊橋の開業効果で伊豆地区の売上高は伸びる見込み。しかし、前年急増したインバウンド需要は団体旅行からグループ旅行へシフトしつつあり、宿泊人数は前年を下回るとみられ、全体では横ばい推移になる見込み。

業種	業界天気	前年を上回るも、中小企業の需要弱く伸びは限定的
リース	☁	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年実績をやや上回って推移したとみられる。新興国経済の減速を受けて、海外への設備投資は大きく減少しており、厳しい状況が続いた。レート競争も継続しており、収益面は悪化した。
	→	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見通し。大企業は更新需要を中心に底堅く推移する見込み。一方、中小企業は業績の回復が進まず、設備投資マインドが冷え込んでおり、伸びは限定的であるとみられる。また、レート競争は止まらず、より低水準となる見通し。

業種	業界天気	高い需要あるも、人材確保は困難で人手不足解消せず
人材派遣	○	(現況)・10～12月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+3～5%上回った模様。営業・販売業務や事務系業務では依然として需要が高かったが、製造業務はやや減速した。供給側の人手不足は解消せず、伸び悩んだとみられる。
	→	(見通し)・1～3月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。今後もITや介護などの分野で高い需要が見込まれる。しかし、供給サイドでは、スキルを持った人材の確保は困難で、人材需給は逼迫した状況が継続するとみられ、企業の人手不足は解消しない模様。
	○	

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が10～12月期、下段が1～3月期

業種	業界天気	家具需要は上向くも、原材料コストが重く収益環境は厳しい
家具(半期ベース)		<p>(現況)・県内の木製家具出荷額は、前年をやや下回った模様。新設住宅着工戸数は増加したが、家具需要は消費増税後の反動減が長引き伸び悩んだ。収益面は、品薄と円安による原材料価格の上昇で+5%程度の価格改定に踏み切る業者が多かった。</p> <p>(見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年を上回る見込み。新設住宅着工戸数が増加する見込みから家具需要も増えるため、景況はやや上向くとみられる。一方、原材料価格は品薄が続き+5~10%上昇する見通しで、販売価格も値上げ直後のため更なる価格改定も難しく、厳しい収益環境が予想される。</p>

業種	業界天気	海外で管楽器など堅調も、国内はピアノなど苦戦か
楽器(半期ベース)		<p>(現況)・国内の楽器販売額は、前年を▲5%程度下回って推移した。ギターや電子ギターは好調でピアノも前年を上回ったが、電子オルガンが前年の半分以下に落ち込んだ。海外は、北米や中国向けが堅調で前年を+10%程度上回った。</p> <p>(見通し)・楽器販売額は前年並みの見通し。国内は、前年をやや下回るとみられる。電子キーボードやギター、管楽器が堅調も、ピアノは大手メーカー値上げの影響で苦戦しそう。海外は、前年をやや上回る見通し。北米は管楽器や電子ピアノが堅調に推移しそうで、中国もピアノを中心に成長が期待できる。</p>

○好調 ○順調 ⊙普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が7~12月期、下段が1~6月期

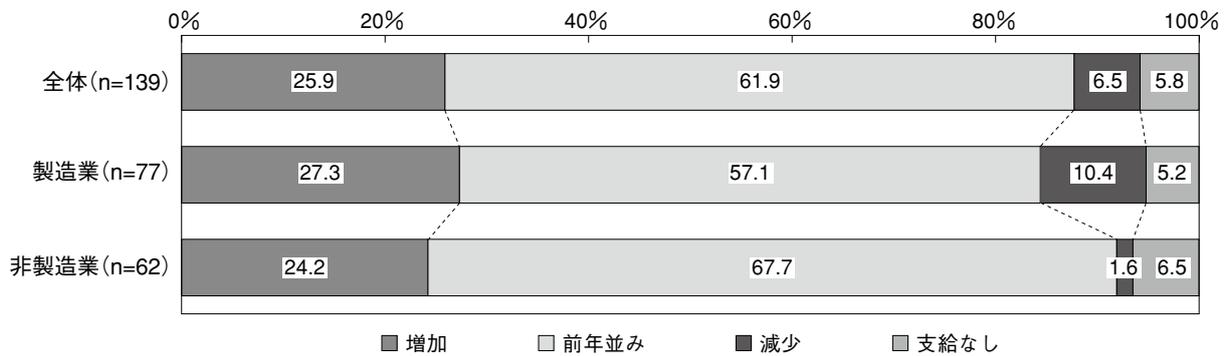
ウォッチング

今冬のボーナス支給額「増加」企業は前年より 6.5 ポイント減少

県内企業に、今冬のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答した企業は 25.9%と前年調査(32.4%)を 6.5 ポイント下回り、「減少」は 6.5%と前年(6.9%)から 0.4 ポイント下回った。一方、「前年並み」は 61.9%と前年調査(53.1%)を 8.8 ポイント上回った。

業種別にみると、建設業(33.3%)、運輸・通信業(33.3%)、紙・パルプ(31.3%)、食料品(30.4%)で「増加」と回答した企業が 30%を超えた。一方、電気機器(12.5%)、サービス業(17.6%)では 2 割を下回った。

図表 今冬のボーナス支給状況（正社員 1 人当たりの支給額）



調査要領：調査時点平成27年12月、調査対象企業数315社、回答社数139社、有効回答率44.1%